

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公益社団法人)ひょうご農林機構	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	<p>【実績】 管理研修棟、学校管理棟等の 屋内清掃業務及び廃棄物処理 業務を専門事業者へ委託して 実施したほか、施設関係者によ る日常的な清掃を実施した。</p> <p>【評価】 来園者から「快適」「美しい」「き れい」と評される優れた園内環 境を確保することができた。</p>	◎	◎
	設備保守管理	<p>日常点検のほか、法令等に基づ く定期点検等を実施</p> <p>【実績】 電気工作物、合併処理浄化槽、 電話交換機、消防設備、空調設 備等の保守管理業務について、 資格者を有する専門事業者 へ委託して実施した。</p> <p>【評価】 職員及び委託業者による日常 点検を実施し、安全管理の徹底 に努めた。</p>	◎	◎
	植栽管理	<p>定期的な補植・除草等による快 適な園内環境を維持</p> <p>【実績】 花壇、芝生、緩衝帯等の日常管 理、定期的な補植、植替え、芝 刈り、草刈り等を実施したほ か、美観の維持に努めた。さら に、管理研修棟前にてプランタ ーによる野菜や花の植栽を実 施し、来園者の関心を集めた。</p> <p>【評価】 整備の行き届いた芝生、植栽 や間伐材やホッパを活用した花 飾りなど、美しい環境づくりを推 進することができた。</p>	◎	◎

	警備	園内秩序の維持、盗難・火災等の未然防止による安全確保と財産保全を図る。	<p>【実績】 機械警備や委託業者による巡回警備を定期的に実施した。特にイベント開催時には、周辺道路の混雑を避け来園者等の事故防止を図るため、交通整理や巡回等の警備強化を図った。</p> <p>【評価】 機械警備並びに警備会社や機構職員等による巡回警備、交通整理及び来園者誘導等を実施し、利用者の安全確保に努めた。</p>	◎	◎
	小規模修繕	来園者等の安全確保及び円滑な施設運営に必要と認められる場合に適宜実施	<p>【実績】 農産物直売所の LED 照明化やウッドデッキ手すりの補修工事等を実施したほか、老朽化した各施設の機器の取替等を実施し、来園者へのサービスの向上を図った。</p> <p>【評価】 適正な予算配分により要修繕箇所への対応を積極的に行い、来園者の安全確保をはじめ、快適性・利便性向上に努めた。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	法令で定められた点検・検査を確実に実施	<p>【実績】 消防設備の点検など年2回実施した。</p> <p>【評価】 計画どおり実施した。</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	開園日:休園日(12/29 から 1/3 まで、毎週水曜日)を除く日、 開園時間:午前 9 時から午後 5 時まで	<p>【実績】通常の開園日、時間に加え、年度計画に基づき、レストラン棟のみ午前8時から午後5時まで、8・9月はバーベキューの営業のみ午後7時まで開園した。</p> <p>【評価】 計画どおりに開館し、県民ニーズに沿った各種体験事業の充実に努めた。</p>	◎	◎

<p>公共性・公平性の確保</p>	<p>設置管理条例の趣旨や基本協定等を遵守し、公平かつ平等な施設運営を実施</p>	<p>【実績】 トイレ、スロープ等施設のバリアフリー化に加え、車いすの貸し出しも行っている。 車いすの手入れ等を実施し、公平かつ平等を基本とし、誰もが快適に利用できる施設運営を実施した。</p> <p>【評価】 設置管理条例等に基づき、全ての利用者に公平な対応を行うよう徹底を図り、来園者にとって公平で快適に利用できる施設運営に努めた。 アンケート結果や多数の礼状では、「職員が丁寧に対応してくれた。」等の肯定的な意見がほとんどを占めており、多くの来園者が満足し、快適に利用できるような施設運営となっている。</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>
<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>年間を通じて食と「農」に関する各種体験や実践、研修コース等を実施</p>	<p>【実績】 事業参加者と連携した食体験、農産物や加工品の直売、地元の野菜や果物を使ったスイーツ等の農産物加工体験、野菜・果樹栽培体験、県の伝統的な作物である、かんぴょうづくり体験、里山再生塾等を実施した。また、親子での農業体験、生きがい農業コース、就農コース等において実践的な研修等を継続して実施した。さらに、楽農生活フェアを春・夏・秋・冬に開催し、体験イベント充実に努めた。 また、レストラン棟では BBQ 体験やいちご園では、バレンタイン企画として、キャンドルナイトと称した夜間営業を行うなど季節に応じた様々な取り組みを行った。</p> <p>【評価】 年間を通じて多彩な体験プログラムや研修コースを継続的に実施している。 また、楽農生活フェアや、旬の農産物の加工体験(干し柿作りや切り干し大根等)のほか、整備した芝生広場を活用し、楽農生活やさしいヨガ体験などのメニューを実施、来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	楽農生活の拠点施設として来園者の多様なニーズに応じた質の高いサービスを提供	<p>【実績】 団体客からのアンケートや来園者からの礼状に加え、「生きがい農業コース」「親子農業体験教室」等の参加者や、イベント時の来園者へのアンケートを実施し、施設運営に来園者の意見を反映させるツールとした。</p> <p>【評価】 アンケートからは、「農業に初めて触れ、楽しさを知った」、「実践的な農業の学びの場として、親子で楽しめた」等の評価を得ているほか、「生きがい農業コース」等でも、「野菜を理解して育てることの重要さが解った」「有機農業への興味が深まった」との回答を得るなど、楽農生活の推進上、効果的な事業展開と魅力ある施設運営に取り組んでおり、さらなる満足度の向上を目指したサービスの提供や対応に努めている。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	200,000人 [前年度:200,000人]	<p>【実績】 来園者数:81,476名 (R4年度:93,773名)</p> <p>【評価】 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、様々なイベント等を企画し、来園者の増加に努めた。</p> <p>しかし、体験イベントの利用者は増加したもののレストラン及び直売所等の利用者が低迷したことにより、4年度より減少した。</p> <p>新年度からは一部の事業参加者の入れ替えを行い、更に事業参加者との連携を密にし、センターの魅力向上を図るとともに活気づくりを進める。</p>	×	×
	施設稼働率	100% [前年度:100%]	<p>【実績】 100%</p> <p>【評価】 今後も100%の達成を維持し、適切な運営を行っていく。</p>	◎	◎

収支状況	収支計画と実績	指定管理料: 25,008 千円 施設使用料: 137 千円	【実績】 指定管理料: 28,120 千円 指定管理料(修繕委託分): 15,164 千円 施設使用料: 31 千円 【評価】 入札等の手続きを円滑に実施し、効率的、効果的な予算執行を行った。	◎	◎
	経費節減に向けた取組	民間事業者の専門技術、経営ノウハウを活用し効率的な運営を実施	【実績】 事業参加者や地元グループ等との連携と協働による日常的な経費節減を実施。また、直売所では、照明設備の LED 化を行い、電力の節約を事業参加者とともに実施し、経費節減を図った。 【評価】 各種体験事業や管理業務を事業参加者や地元グループ等との協働で実施しており、公と民の連携による運営の効率化に努めた。特に、事業参加者に冷房温度の適正化を呼びかけるなど夏季消費電力の節約に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望、苦情に対して誠意をもって対応する。	【実績】 センター長、次長において苦情・要望等を集約し、職員及び事業参加者に対して適切な指導を実施した。 また、管理研修棟エントランスにご意見箱を設置し来園者の要望等の収集に努めた。 【評価】 施設利用者からの要望・苦情を集約し、迅速かつ誠意ある対応の徹底に努めた。 また、ご意見箱については、その回答をエントランスに掲示して、他の来園者への情報発信にも活用した。	◎	◎

危機管理体制の確保	自衛消防組織編成に加え、公社本社、県所管課、警察署、消防署、救急医療センター、民間参画事業等を包括した緊急連絡体制を構築	【実績】 計画どおり実施 【評価】 自衛消防組織編成や緊急連絡体制を構築し危機管理体制の確保に努めた。令和5年度も、大きな事故はなかったが、今後も危機管理体制を維持して緊急時に備える。	◎	◎
県・関係機関との連携	事業参加者、県庁所管課で構成する協議会等を通じた調整・連携、楽農生活インストラクター・楽農サポーターの参画による事業推進を実施	【実績】 計画どおり実施 【評価】 県と参加事業者を含めた協議会で定期的な連携体制が機能しているほか、緊急時には県と迅速な連絡を行っており、緊密な連携ができています。	◎	◎
業務の再委託の状況	-	-	-	-

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>〔施設維持管理業務〕</p> <p>イベント開催時における駐車場警備体制の徹底、日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めるとともに、来園者が快適に過ごせる園内環境の確保に取り組んでおり、評価できると考える。</p> <p>〔運營業務〕</p> <p>集客施設の楽農カフェ「Five Country Cafe」は、オープンから2年経過したところであるが、来客者数は当初予想より少なく推移しているため、さらに様々な取り組みが必要と考えている。</p> <p>経営不振により前事業者が撤退した農業直売所については、6年度から神姫バス(株)が新たな事業者として運営に参画することとなり、今後、集客の強化に取り組む。</p> <p>生きがい農業コースや親子農業体験教室など各種講座や体験を実施している。就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースについては、受講生の確保に向けた取り組みを進めている。</p> <p>〔利用状況〕</p> <p>来園者数は8万1千人となり、年間の入園者数は目標数値及び前年度実績ともに下回ったが、楽農生活フェアや、旬の農産物の収穫、加工体験、整備した芝生広場を活用し、Facebook、Instagram、Xへの投稿といったSNSを積極的に活用してのイベントPRを発信することで、新たなファンづくりに取り組んでいる。また、定期の運営協議会においては、具体的な改善策の検討を図るなど、適切に対応し来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。</p> <p>〔収支状況・運営体制〕</p> <p>経費削減に努め、効率的な運営を行うとともに、事業参加者や地元農業者グループ等が参画・連携し、効果的な事業展開が行えており、評価できると考える。</p> <p>来園者の視点にたつて、さまざまな取り組みを進めており、今後もより多くの県民がそれぞれのライフスタイルに合った多様な「楽農生活」の実践ができる拠点施設として、施設運営、事業展開等の向上に取り組む。</p>

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部総合農政課

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公益社団法人)ひょうご農林機構	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

コロナ禍により来園者数が減少していたが、様々なイベントや体験等を企画することで来園者数の増加を図っている。

また、大きな事故やトラブルがなく、基本協定及び年度別協定に基づき、適正な管理が行われているものと判断できる。

引き続き安全の確保や園内環境の維持を徹底いただき、適切な管理をお願いするとともに、「楽農生活」の体験や実践ができる拠点施設として県民に活用されるよう努めていただきたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

〔施設維持管理業務〕

日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めていただいているため、利用者アンケートにおいても満足度が高く、施設利用者へのサービスの質は維持されており、今後も維持していただきたい。

〔運営業務〕

コロナ禍における外出自粛により来園者数は伸び悩んでいたが、楽農学校就農コースや親子農業体験など各種講座や体験をコロナ禍以前の受講者数に徐々に戻していくことで来園者は開園時から 260 万人を超え、さらなる来園者の増加が期待できる。また、従来の広報に加えて SNS の積極的な利用等、若い世代にも関心を持ってもらうための広報を強化している。

さらに、就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースや親子農業体験、食と「農」の学びにつながる各種講座・体験を実施するなど、「楽農生活」の実現に貢献する事業を積極的に企画運営し、「楽農生活」の機運醸成に大きく寄与されている。

〔利用状況〕

利用者数の増減はあるものの、各種体験の増や、SNS の積極的な活用により、年4回の大規模イベントの集客数は対前年比 125%となるなど興味深いイベントの実施等、積極的なセンターの運営を行っている結果であると考えられる。

今後も野菜栽培・収穫体験・里山体験等ファンづくりに取り組み、定期的な運営協議会において改善策の検討を図るなど、適切に対応いただきたい。

〔収支状況・運営体制〕

指定管理者を中心に、定期的に民間事業者や地元農業者グループ等との協議が行われており、また定期的な運営協議会を行うなど連携体制が確立されており、評価できる。

今後もアンケートを実施するなど利用者の要望を把握し、利用者数の増加を図るとともに、利用者満足度の向上に努めていただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シート of 施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年度～5年度(4年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	・清掃の実施により園内を入園者が常に快適に利用できる状態を維持	毎日、園内清掃を実施。 (園路、広場、便所等 1回/日以上)	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	建物、園内道路等は、日常、各現場で担当職員が点検を実施。	◎	◎
	植栽管理	・四季の特徴を明確にしつつ、デザインを重視した花のある風景を演出する年間植栽管理計画を作成し実施	植栽管理計画に基づく花壇の植栽や樹木剪定・伐採等による景観改良を実施。	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間の機械警備 ・入園料の銀行への預金を複数の職員で実施	園内の安全確保のため、昼間の園内巡視による状況確認、夜間の機械警備等を実施。 また、事故等の発生に備え、対応マニュアルの再確認を職員に周知。	◎	◎
	小規模修繕	・軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施	軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施。	◎	◎
	法定点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等は専門業者等に委託して実施。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日：毎週水曜日及び12月28日～翌年1月2日(ただし、3月中旬～5月上旬、10月中旬～11月下旬、は無休)	左記の通り。 (冬期イベントによる夜間一部開園実施。12/2～12/24間の土日 17:00～20:00)	◎	◎
	公共性・公平性の確保	・地域自治体や地域団体との連携を図り、施設の利用促進を実施	地域団体と連携し、イベントを開催した。(加西市じば物産展、ロハスパーク)	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	・入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種体験教室等を実施	体験教室や植栽展示等81回のイベント等を実施。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を年1回実施	令和5年11月3日に南入園ゲートで来園者アンケートを実施(回答数346人)。	◎	◎
月利	利用者数	目標入園者数:250,000人 [前年度:234,300人]	入園者数 208,687人	○	○

	施設稼働率	会議室の利用:20回 [前年度:11.2%]	会議室の利用:14回	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:180,000千円 利用料金収入:53,320千円 収入計233,320千円 支出計233,320千円	指定管理料:195,146千円 利用料金収入:47,477千円 収入計242,623千円 支出計242,652千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理を行なう。	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費、購入経費を削減、また、園内の清掃を全職員で実施。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡する。	特になし	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	ネットワークへの掲載、職員研修の実施により危機管理マニュアルの内容を周知した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県等と密に連絡を取りながら管理運営を実施	温室等の修繕を、開園しながら行なうことができた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等を専門業者等に委託して実施した。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

ロハスパーク等持込みイベントの誘致に取り組んだが、気温の影響によりチューリップの開花が早まったことにより、4月後半の入園者数が減少したこと等により目標を下回った。

今後は、来園者の満足度が上がるように、近隣施設との連携イベントを強化し、植栽にも新たな取り組みを試み、入園者数の向上及び効率的な運営に努めていく。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部農産園芸課

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年度～5年度(4年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

令和5年度は、気温の影響でチューリップの開花が早まったことにより、集客の見込める4月後半の入園者数が減少し、結果として、入園者数が208,687人と昨年度より約10%減少した。指定管理者は、冬期イルミネーションイベントや体験展示や植栽展示などのイベントを81回開催し、入園者確保、施設の魅力向上に取り組んだ。また、加西市じば物産展やロハスパークなど、地域団体と連携したイベントも開催するなど、施設の利用促進のためのイベントを実施した。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

入園者へのアンケート結果でフラワーセンターの良いと思われる点として、「花がきれい」を73.1%、「気分が落ち着く」を64.2%の入園者が回答している。

展示する花の品質や施設の雰囲気を持続できるように、老朽化したバックヤード温室の改修を予定しており、この改修工事を開園しながら実施できるよう指導していく。

また、アンケート結果によると、年代別では約70%が60代以上、居住地別では、約90%が県内在住者、フラワーセンターを知ったきっかけとして「以前から知っている」が89%と、新規来園者の獲得が課題である。Instagramの活用や地域団体と連携したイベント開催等で、幅広い世代へ積極的に情報発信を行い、認知度向上・入園者数増加に努めていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
—	A	S	S	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 5 年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年度～5年度(4年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	入園者が常に快適に利用できる状態を維持する。	毎日、園内清掃を実施 (園路、芝生、駐車場、便益施設棟等 1回/日以上)	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	日常点検は職員が実施、設備等の定期点検は専門業者に委託して実施した	◎	◎
	植栽管理	・花畑の生育状況を把握し、灌水、抜根除草、薬剤散布等を計画的に実施 ・兵庫県内で生産された花苗を使用 ・近隣牧場と連携し低コストで大面積への堆肥散布	植栽の管理は計画を基本に生育、気象に合わせて行い、植物が良好な状態になるように努めた 花畑の花苗はすべて兵庫県産を使用した 計画通りの堆肥散布を行った(36900㎡)	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間における便益施設棟の機械警備 ・駐車場、園内の監視カメラによる昼夜監視	左記の通りの警備を実施した	◎	◎
	小規模修繕	・簡単な補修等については、職員による補修作業や近隣業者による補修	軽微な補修作業は職員や業者で対応した(木柵、木道他)	◎	◎
	法定点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく法点検等は、専門業者等に委託して実施した	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・年末年始休園日は 12/29～1/3 ・園内作業等のための休園日を年間 26 日設ける ・開園時間:9時～17時	大雨や台風により2日間休園したが、それ以外は計画通りの運営を行った。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	地元のイベント等に積極的に参加し、観光関連団体との連携に努める	淡路くにうみ協会「高校生花とみどりのガーデン」を開催 観光協会が実施するスタンプラリーに参加した	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種誘客イベントを企画実施	公募したデザインを牧草地に描くアースワークを実施した(応募総数 216 点) コスモスの摘み取りを 4 回実施した(10 月下旬)	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を年 1 回実施	10 月 17~26 日の間に 4 日間で実施した(回答数 405 人)	○	◎
利用状況	利用者数	目標入園者数: 750,000 人 [前年度: 564,350 人]	入園者数 527, 940 人となり、前年度を下回った	△	△
	施設稼働率	駐車場 [前年度: 259.6%]	駐車場稼働率 233.6% ※稼働率=延べ駐車台数/延べ駐車場枠数	△	○
収支状況	収支計画と実績	【計画】 指定管理料: 95,000 千円 利用料金収入: 33,400 千円 その他収入: 10,549 千円 収入計: 138,949 千円	【実績】 指定管理料: 106,475 千円 利用料金収入: 32,173 千円 その他収入: 11,133 千円 収入計: 149,781 千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	適切な人員配置、各種資材の適切な管理等により、コストを削減 管理運営業務等に係る資材・資源の節減管理	限られた人数を適切・柔軟に配置することにより、コストを削減した 施設維持管理作業等の直営化により外部委託費・購入経費を削減した	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡している	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	事故等の発生に備え、対応マニュアルを職員に周知するとともに、消防訓練を 2 回実施した	◎	◎
	県・関係機関との連携	抜本的に施設の修繕等が必要な場合は、県に報告し指示に従う	歩道の横断防止柵設置工事等、県や洲本土木事務所、土地改良区と連携しながら行った	◎	◎
	業務の再委託状況	事業計画通りの業務内容、選定方法で外部委託を実施する	事業計画通りの外部委託を行った	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

今年度は、コロナ禍も落ち着き、バスはコロナ前ピーク年の約7割まで回復した。ただし、来園者数は、春夏は伸び悩み、秋で回復、また3月の天候不順もあり、結果として52万人と昨年度を下回った。

植栽においては、8月の台風被害でひまわりが早期に終了したが、秋は災害もなくコスモスやサルビア、センニチコウの美しい景観を楽しめたことが入込数の拡大につながった。また冬のストックも良好で2月末まで楽しむことができた。来年度に向けて、生育の良くなかったブルーサルビアの品種変更や、新たな品種(ビンカ)導入を進めている。

駐車場に係る工事においては、臨時駐車場整備のほか多数の工事が実施されたが、細かな工事調整により、大きなトラブルもなく、3月末に完成を迎えることができた。特に、A1駐車場沿いの歩道に横断防止柵を設置できたことで、入園動線の安全確保並びに景観改善もできた。来年度は夏休みより供用予定である臨時駐車場の安全で円滑な運用を模索していかなければならない。

維持管理においては、新たなトラクター購入により労働環境の改善と効率化を図ることができた。ただし、マンパワーに頼らざるをえない清掃スタッフ等人員の高齢化、人手不足が顕在化しており、新たな人材確保を模索している状況である。

リピーターが多い施設であることから、今後とも飽きのこない花さじきらしい雄大な花の風景づくりに取り組んでいきたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者:農林水産部農産園芸課

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年度～5年度(4年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

今年度は、一年間を通しての天候不順や夏季の猛暑により、集客の見込めるゴールデンウィークや夏休み期間中で出控えが起こったことで、結果として 52 万人と昨年度を下回る結果となったが、コロナ禍も落ち着き、バスによる来園者数が前年度に比べ 30%増となった。

また、アンケート結果によると、来園者が来られたきっかけとしてホームページが 25%、Instagram が 13%とインターネット利用が多い。特に 20 歳代は Instagram を見て情報を得る機会が多いため、令和4年度にホームページ等情報発信方法を全面リニューアルした結果が継続している。

さらに、「高校生花とみどりのガーデン」を開催や、観光協会が実施するスタンプラリーへの参加など、地元のイベントにも積極的に参加し、教育機関や観光関連団体との連携に努めた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

今年度は、観光部局、団体と連携し団体客数の増加を目指していたこともあり、バスによる来園者数が前年度に比べ 30%増と結果として結びついている。施設の性質上、天候不順や夏季の猛暑が直接来園者数に影響しているが、今後も引き続き観光部局、団体との連携等により、来園者数を増やしていきたい。

また、アンケート結果によると、年代別では、入園者数の約 40%が 60 代以上、居住地別では、約 95%が関西圏であった。リピーターも多いことから、引き続き県内や近隣府県の来園者の増加を目指すとともに、Instagram 等の SNS を有効活用し、全国の幅広い世代へ積極的に情報を発信し認知度向上を目指す。

3 施設所管課による総合評価

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
指定管理者制度の導入初年度のため対象外		S	S	S	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	屋内清掃、屋外清掃、トイレ清掃、ごみ処理の実施(1回/日)	職員による清掃等を毎日実施し、来園者が常に快適に利用できる状態を維持した。	◎	◎
	設備保守管理	施設・設備の日常及び定期的な点検、異常発生時の速やかな対応	職員による日常的・定期的な点検を行い、適切な保守管理を実施した。	◎	◎
	植栽管理	年間植栽管理計画の作成、花き・樹木・芝生等の展示・管理	年間植栽管理計画に基づき、植え替えや害虫駆除、剪定等による適切な管理を実施し、魅力ある景観を提供にできた。	◎	◎
	警備	巡回(1回/日)、動物舎の出入管理、交通整理等の実施、緊急連絡体制の整備	①安全確保 職員による毎日の巡回や夜間警備の業者委託、確実な施錠の励行等を行い、緊急時の連絡体制を整備した。 ②家畜伝染病対策 動物のふれあい・見学にあたっては、ビジターハウスにて利用者が氏名等を記帳することで入場管理を行った。 ③交通整理 駐車場の交通状況は職員が毎日監視し、GW等来園者が多い場合には交通整理のために警備員を配置した。	◎	◎
	小規模修繕	経年劣化・老朽化等による施設・機械・設備等の小規模な修繕の速やかな実施	軽微な補修は職員で行い、業者による対応が必要なものは速やかに発注のうえ修繕した。	◎	◎
	法定点検の実施	関係法令等に基づく電気設備等の法定点検の実施	業者委託により電気・消防設備の点検を年1回、電気工作物・浄化槽の点検を毎月実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	木曜休園(祝日の場合は翌日) 開園時間 9時～17時	職員の勤務体制を適宜調整し、計画のとおり開園した。(開園日数:315日)	◎	◎

	公共性・公平性の確保	公平かつ平等な運営の実施、 全ての方が利用しやすい施設 となるよう施設整備及び必要と される配慮等を提供	特定の団体等に有利が生じな いよう公平な運営を行い、 車いす等の備品の貸し出しや 多言語対応機器の利用等、来 園者に応じて可能な限りの対 応や工夫を行った。	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	①但馬牛の展示、管理 ・放牧を活用した飼育展示 ・繁殖雌牛の飼育:13頭 ・子牛出荷予定頭数:8頭 ②小動物の展示、管理 ・ふれあい広場での展示 ③花き、樹木等の展示、管理 ・園内での花の展示 ④但馬牛博物館の運営 ・展示(企画展:2回、出張展示 1回等) ・資料管理 ⑤イベントの企画、運営 ・但馬牛への理解が深まるイベ ント等の実施:60企画	①地域の飼育方法に倣って放 牧を行い、周辺環境に調和した 飼育展示を実施した。また、繁 殖雌牛を12頭飼育し、子牛を9 頭出荷した。 ②ふれあいを重視した飼養環 境を維持し、適正な繁殖管理を 実施した。 飼育頭数:ヒツジ等57頭 ③花園やビジターハウス周囲 の花壇で花の展示を行った(通 年展示、植替2回)。 ④企画展の実施を2回(2~9 月、10月~3月)、出張展示を1 回(10~1月)、小学校を対象と した但馬牛に関するオンライン 授業を1回(12/11)実施した。 延べ入館者16,458名 ⑤夏休み但馬牛講座、但馬牛 クイズ大会、羊の毛刈り体験、 牧場公園雪まつり等、49イベ ントを実施。延べ参加者1,745名	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートを実施し来園者から の意見聴取や満足度等の把握・ 管理を行う。	イベント開催時に2回実施。 施設全体の満足度について、 良好である回答(大変満足、や や満足)の割合が89%だった。	◎	◎
利用 状況	利用者数	目標年間来園者数:200,000人 [前年度実績:157,440人]	年間来園者数実績:158,370人 積雪不足によるスキー場の営 業日数の少なさが影響し、前年 度比100.6%(930人の増)に留 まり、目標は達成できなかった。	△	△

	施設稼働率	<p>県や町等との連携や各種媒体の活用により効率的に広報を行い、利用促進を図る。</p> <p>【計画】 農産加工体験 目標受入回数:150回 目標イベント使用回数:12回 [前年度実績] 農産加工体験 受入回数:247回 イベント使用回数10回 稼働日数:135日 稼働率:42.6%</p>	<p>加工体験を実施した。 主な加工体験:そば打ち、うどん打ち、ソーセージ作り等</p> <p>【実績】 農産加工体験 受入回数:281回 イベント使用回数:11回 稼働日数:141日 稼働率:44.8%</p>	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<p>【計画】 収入計:105,804千円 ・指定管理料:93,061千円 ・利用料金収入:626千円 ・その他:12,117千円</p> <p>支出計:105,804千円</p>	<p>【実績】 収入計:111,102千円 ・指定管理料:96,353千円 ・利用料金収入:302千円 ・その他:14,447千円</p> <p>支出計:111,102千円</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>管理運営費の低減を図るため、管理手法の工夫等に取り組む。積極的に資源の再利用を行う。</p>	<p>軽微な補修・修繕は職員で行い、資材の再利用や節約についても積極的に取り組んだ。光熱水費の経費節約に取り組み、紙の広報媒体を減らしSNSで効率的な周知・広報を行うことにより用紙使用量を削減した。</p>	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>要望及び苦情に対して誠意を持って対応し、重要な内容については県へ速やかに報告する。</p>	<p>ご意見ご要望箱を設置しているが、本年度は投書がなかった。特段の苦情等も確認されなかった。接遇に関する情報提供を朝礼時に行い職員への教育を実施した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	<p>災害や急病、怪我、犯罪等が発生した場合、安全確保のうえ救護対応を行い、関係機関への連絡を行う。簡易な薬品や資材等を常備し、対応マニュアルを職員へ周知する。</p>	<p>緊急連絡網を作成し職員へ周知した。軽度の傷病者に常備していた救急用品・医薬品を提供した。</p>	○	○

県・関係機関との連携	<p>県等と密に連絡をとりながら協定書・仕様書に基づいた適正な管理運営を行う。</p> <p>随時、管理運営状況等を県へ報告し、調査・照会や事業実施等について要請があった場合は協力をを行う。</p> <p>また、各種団体、地域住民、公共機関等と連絡調整を行い、利用促進活動に努め、地域振興に資する活動等についても積極的に取り組む。</p>	<p>県や町、地域、その他関係機関等と緊密に連携をとり管理・運営を行った。</p> <p>「人と自然の博物館」との共同企画実施:3回</p> <p>研修、社会学習等の受入及び派遣:70回</p> <p>トライやるウィーク受入:1回(6名)</p> <p>近隣のこども園や学校、PTA等の利用も多く、交流施設として地域に必要とされている。</p>	◎	◎
業務の再委託の状況	<p>施設・設備の保守管理、資源廃棄物の処理、夜間警備、来園者の交通整理</p>	<p>左記及び除雪業務、ウェブサイト保守、枯損木処理、イベント運営業務、園内管理作業補助、加工体験業務補助、但馬牛博物館殺虫業務、イラストパネル作成業務、定期輸送にかかる実証実験運行业務</p>	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

■自己評価

- ・ 新型コロナウイルス感染症が落ち着き、遠足や PTA、子供会等の利用が復活し、夏期は昨年より少し上回るペースで入園者数は増加した。しかし、冬期は深刻な積雪不足によるスキー場営業の不調が影響し、結果的に前年度とほぼ同じ入園者数であった。
- ・ SNS による情報発信の強化や、地元アイドルの PR 大使就任など、知名度の向上につながる活動ができた。
- ・ 今年度も但馬牛アンバサダー育成講習会や、神戸ビーフキッズセミナー等、他団体と連携して事業に取り組むことができた。
- ・ 但馬牛博物館では美方郡産但馬牛の世界農業遺産認定申請に協力し、7 月の認定後も情報発信拠点として、研修会や来館者への解説を行い、“但馬牛”や“但馬牛と人”が育んだ文化・歴史の普及に努めた。

■来年度の取組目標

- ・ 開園 30 周年を迎え、来園者数の増加にむけて、地域内の他の観光資源等と誘客要因の相乗効果を生み出せるよう連携の強化を図り、情報発信についてもより目につきやすいよう工夫を凝らし、広範囲に周知できるよう努める。
- ・ 一方で、施設の老朽化が進んでいることから、但馬地域では数の少ない小さなこどもと家族で楽しめる公園として、安心して過ごせるよう施設の修繕、運営に努める。

■課題と対策

- ・ 開園日時、動物見学可能時間、グリーンシーズンのリフト運行条件等、基本的な情報の周知が十分でなかったことから、各種媒体による広報活動を強化する。
- ・ 老朽化が進んだ施設について、順次改修、整備等を行わなければならない。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部畜産課

施設名	県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

【維持管理業務】

- ・豊かな自然の中に位置する施設特性を活かしたファミリー層のニーズに応えたイベントや憩いの広場を提供するだけでなく、校外学習の受け入れなど学びの場としての取組みが行われている。
- ・必要な小規模修繕を随時実施する等、施設の維持管理体制が整っている。

【運営業務】

- ・利用者アンケート結果で、施設全体の満足度について8割以上の利用者から満足との評価を得ており、おおむね良好な運営ができています。

【利用状況】

- ・「但馬牛博物館探検隊」等、但馬牛を間近で見学できるイベントが開催されており、地域の子どもやリピーターの来園を見込んだ運営がなされている。
- ・英字パンフレットの作成や多言語対応機器の利用など幅広い利用者への対応に努めている。

【収支状況】

- ・各種 SNS を利用した周知・広報による費用節減が図られている。

【運営体制】

- ・他県立博物館との事業連携による企画展では、関係者の関心が集まる魅力的な展示が行われている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・施設の老朽化により、修繕が必要な箇所についてリストアップし、快適かつ安全に過ごすことができる環境づくりを目指し、日々の適正な施設点検、修繕、管理に引き続き努める。
- ・目標利用者数の達成に向けて、雪不足時のイベント内容の見直し、利用者満足度調査結果の分析による、積極的な改善に取り組むよう指導を行っていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
C	B	A	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立三木山森林公園	現指定管理期間	令和4年度～8年度(5年間)
指定管理者	公益社団法人ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	利用者の快適性をさらに高めるため管理水準を超えた清掃管理業務を実施	<ul style="list-style-type: none"> 管理水準以上の内容を実施 (森の文化館及びロータリー付近トイレ:2回/日、その他トイレ:1回/日、共用部分:日常清掃に加え定期清掃2回/年、貸館:利用後随時など) 職員の日常巡視巡回中にも対応 利用者が清潔で気持ちよく利用できるよう、常に注意を払い、貸館利用者にも利用後の清掃を促し協力を得ることで、さらに快適性が高まっている。 利用者を対象としたアンケートでは、施設内(屋内)の清潔さについて98%が「とても良い」、「良い」と回答している。屋外トイレの清潔さについては、92%が「とても良い」、「良い」と回答している。 	◎	◎
	設備保守管理	建物・工作物・遊具などの保守点検、整備を定期的を実施、必要に応じて修繕を実施	<ul style="list-style-type: none"> 建物、構造物は毎日職員が巡視し点検(休園日は警備会社に委託) 設備の法定、定期点検は業者に委託 (電気工作物:月次点検6回年次点検1回、防火設備:2回/年、自動ドア:2回/年、空調設備:2回/年、エレベーター:月次点検12回年次点検2回、木製施設:1回/年 など) 毎日の巡視の徹底や法定点検等を計画どおり実施したことにより、機器の不具合箇所を早期に発見し修繕することで故障を未然に防ぐことができた。今後も利用者の安全確保及び利便性に考慮しつつ取り組んでいく。なお、令和元年度に老朽化対策工事が実施されたが、建物外の舗装、配管などは対策されず、更新が未実施の機器もあることから対策が必要である。 	○	○

植栽管理	<p>「生物多様性の保全」や「森の若返り」を重視した「森づくり施業計画」（令和5年度～令和9年度）に基づき、きめ細やかで適確な施業の実施 ナラ枯れ木の調査及び伐採の実施</p>	<p>経験豊富な樹木医や「三木山サポーター」と協力し、新たに多様な生物が生息する環境の創生など事業計画に基づく管理を実施した。</p> <p>管理内容としては、雑木伐採、ススキ・チガヤ等の草原性植物の植栽、水辺の環境創生等を実施し、利用者満足度の向上、生物多様性への環境づくりのほか、ボランティアの更なる意欲向上と積極的な連携を図ることにより魅力ある景観づくりに努めた。</p> <p>ナラ枯れ状況の踏査を行い、倒木時に危険度の高いナラ枯れ木から順次伐採を実施した。</p>	◎	◎
警備	<p>事故、盗難、破壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者の安全及び財産の保全</p>	<p>利用者の安全確保、事故や危険行為の防止のため、開館時間中は職員、夜間及び休日は委託業者による巡回警備を行い、常に園内の状況に注意を払うとともに、施錠や機械警備等の徹底を図った。また、消防訓練等を実施することにより、事故、盗難、火災等の対処方法を周知し、発生予防にも努めた。</p>	◎	◎
小規模修繕	<p>概ね 100 千円以上については、所管課と協議し、それ未満については、指定管理者が実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・100 千円以上については、所管課と協議し、危険箇所について利用者に注意喚起した。 ・100 千円未満については、利便性を考慮のうえ迅速な修繕を実施した。 ・施設の老朽化に伴う修繕については、利用者の安全確保に配慮し早期に可能な限り実施した。 ・異常や破損を確認した場合、修復等可能な事案については速やかに職員で対応し、利用者への影響を最小限に留めた。また、専門性を要する修繕については、業者へ点検・修理を依頼し、部品交換に時間がかかる場合は必要に応じ仮修繕を行うなどして公園の運営に支障をきたさないよう努めた。 	◎	◎

	法定点検の実施	施設・設備の状況を記録 法定水準を超えた保守点検業務に 配慮	・設備の法定、定期点検は業者に 委託実施した。 各種設備等の法定点検はもとより 保守点検を着実に実施し、設備の 安全性を確保した。	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	開館時間 9 時から 17 時まで(貸館最 長 21 時まで) 休館日は水曜日(祝日に当たるとき はその翌日)と年末年始	開館時間 9 時から 17 時まで(貸館 最長 21 時まで) 休館日は水曜日(祝日に当たるとき はその翌日)と年末年始	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用者の年齢や性別、障害の有無な どに係わらず、平等利用を確保し、 利用サービスの向上を図る。	毎朝、職員ミーティングにより注 意事項などを情報共有するととも に、受付業務におけるマニュアル を強化するなど、公平で安心親切 な対応を心がけるよう職員全員に 周知徹底している。 来園者を対象としたアンケートで は、スタッフの対応について、「た いへん満足」、「やや満足」と回答 した利用者が 98%以上と非常に高 い評価を得ており、利用者に対する サービスの向上ができたと思え る。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実 施状況	森づくり、自然観察、クラフト体験な どの森林環境や生物多様性に関する 普及啓発企画や音楽祭、茶会など施 設利用企画などを「イベント検討委員 会」の指導助言のもと「三木山サポ ーター」と連携しながら実施	・イベント 計画 43 回→実施 41 回 ・環境体験学習等 計画 25 回→実施 19 回 コロナ禍においても、感染拡大防 止に配慮し、積極的に環境学習や イベントを実施した。 イベント:天候の影響で中止したも のを除き、計画通り実施できた。 環境体験学習等:調整し、すべての 申込みに対応できた。	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対する、施設利用に関するアンケートの実施	R5年4月～9月とR5年10月～R6年3月に利用者152人に対するアンケートを実施し、満足度に関して4月～9月では「たいへん満足73%、やや満足25%(計98%)」、10月～3月では「たいへん満足82%、やや満足16%(計98%)」との回答があった。 利用者へのアンケートでは、非常に高い評価を得ていること、また、リピーターが約8割いることから、利用者の満足度は非常に高いと認識している。	◎	◎
利用状況	利用者数	600,000人 [令和4年度:568,002人]	553,378人	○	○
	施設稼働率	[令和4年度] 音楽ホール:53.1% 多目的ホール:26.5% 展示室:46.5% 研修室:28.7% 会議室:28.7% クラフト館 97.5%	[令和5年度] 音楽ホール:42.1% 多目的ホール:24.2% 展示室:44.1% 研修室:23.8% 会議室:23.8% クラフト館 98.6%	○	○
	収支計画と実績	[令和4年度] 収入 指定管理料:124,143,577円 利用料金収入:4,772,550円 その他収入:9,524,585円 支出 140,994,636円	[令和5年度] 収入 指定管理料:108,241,000円 利用料金収入:4,655,450円 その他収入:8,956,317円 支出 125,436,324円	○	○

収支状況	経費節減に向けた取組	人件費の削減 光熱費の削減 委託料の削減	・シルバー人材センターからの人材派遣の活用 ・三木山サポーターや森林ボランティア等、協力者による業務の遂行 ・園内の照明をLED対応に交換し、デマンド監視システムによる電気使用量を削減 ・保守管理委託にかかる契約年数を5年とし経費削減(R4年度～)各種事業の執行にあたり、サポーター等との連携を図るなど、人件費の削減に努めた。また、電灯の間引き消灯、室内温度 28 度設定、屋根散水装置の稼働、修理やボイラーの稼働調整などを行い、光熱費の削減に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケート・みなさまの声・メール等により要望等を把握し対応	・迅速、丁寧に対応 窓口や電話による苦情、要望等には、迅速、丁寧に対応し、意見箱等への投函分については、改善点や今後の対応等を掲示して説明を行うなど、適切な対応に努めた。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害、その他事故時の利用者の安全確保等	・消防訓練実施: 2回/年 危機管理マニュアル等に基づいた訓練を行い、必要時に迅速な対応ができるよう取り組んだ。	◎	◎
	県・関係機関との連携	本社を通じて県と密に連絡を取りながら管理運営を実施	・修繕が必要な箇所など、本社を通じて密に県と調整 ・レストラン運営会社のシンエーフーズ(株)と密接に連携 緊急を要する修繕を円滑に実施した。また、レストランの集客に繋がるアイデアなど日常的に意見を交換し、双方の集客増加に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	設備の保守、清掃、ナラ枯れ大径木の伐採などを専門業者に再委託して実施	法定点検や保守点検、清掃や警備、ナラ枯れ大径木の伐採などを専門家に再委託して実施し、利便・安全の確保に努めた。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

定期的な施設点検や森林整備等適切な維持管理を行うとともに、コロナ感染症拡大防止対策を適切に行いながら集客イベント等を実施した。アンケートによると利用者満足度も高く、全体的に良好な公園管理を行えたと考える。令和6年度は、引き続き、利用者の利便と安全の確保を進める。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立三木山森林公園	現指定管理期間	令和4年度～8年度(5年間)
指定管理者	公益社団法人ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 多様な里山林の整備、森林・草原・水辺環境の維持・整備を通じて、生物多様性の保全・再生活動に継続的に取り組み、生物多様性に富んだ環境が保全されている。この強みを活かしたイベントや環境体験学習にも積極的に取り組んでおり、多くの県民が森林とのふれあいを深める機会を提供している。
- 施設の管理については、毎日の巡視や法定点検の実施に加え、小規模修繕に迅速に対応し、来園者の利便性及び安全性を確保している。
- リピーターが約8割で、利用者の満足度が高いことは非常に高く評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 公園の特色である広大な里山林や生物多様性の保全の大切さを、来園者さらには公園外にも広く分かりやすく伝えていくことが期待される。
- 今後も引き続き、専門家の意見も取り入れながら、適切な施業計画の立案・管理に努めるとともに、公園独自のボランティアである三木山サポーターや関係機関・団体と連携して各種取組を進めて欲しい。来園者の目線に立って、より県民にとって親しみやすい地域密着型の公園となるよう、より一層の拡充を期待したい。
- 全体の利用者数を増加させるべく、SNS やホームページをうまく活用し、新規来園者のさらなる獲得に向けた取組に期待したい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立国見の森公園	現指定管理期間	令和3年度～令和5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人しそ森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	◎	◎
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	◎	◎
	植栽管理	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	◎	◎
	警備	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	◎	◎
	小規模修繕	<ul style="list-style-type: none"> 建物関係計画修繕を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 山麓交流館屋根(雨漏り対策) 山上駅地盤とデッキ補修 山麓駅舎周りのテーダ松伐採 	◎	◎
	法定点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> 防災設備(煙・熱感知器)法定点検 	令和6年2月27日 二和防災設備(株)により実施済み。(問題なし)	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	<p>通年開館とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	<p>通年開館とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> プログラム参加者募集等の情報についてはHP、リーフレットを関係公共施設への常設 森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付け 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム参加者募集等の情報についてはHP、リーフレットを関係公共施設への常設をしている。 森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付けている。ただし定員を変更した場合、土日祝の電話予約は停止して窓口のみとしている。 	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実施目標数 112回(毎週土・日) ・団体利用目標数 400団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施プログラム数 94回 ・団体利用数 387団体 天候等の影響で中止したプログラムを除けば、計画通りに実施できた。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来園者に対しては交流館および学習館にそれぞれアンケート用紙を設置し、意見・要望を収集 ・プログラムアンケートは実施ごとに参加者から満足度・意見を収集し計画立案時に反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来園者アンケート 投函数 119件(前年81件から増) 総合評価 大変満足 46% やや満足 35% 普通 17% ・プログラムアンケート 回収数 238件 総合評価 大変満足 77% やや満足 21% 普通 3% 	◎	◎
利用状況	利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 40,000人 [前年度: 39,236人] 	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 35,774人 ・一般利用者数 26,811人 ・プログラム参加者 1,639人 ・団体利用者数 3,944人 ・里山づくり活動参加者数20人 ・視察 0人 ・その他 3,360人 	○	○
	施設稼働率	<ul style="list-style-type: none"> 開園予定日 308日 森林学習軌道運行予定日308日 森林学習軌道運行便数2464便 (開園予定日数308日×一日最大運行便数8便=2464便) 	<ul style="list-style-type: none"> 開園日 311日(点検3日含む) 森林学習軌道運行日 308日 森林学習軌道運行便数 1606便 [:65.2%] 乗車する人がおらず運行しなかった便を除けば、計画通りに運行できた(来園者の要望にはすべて応えられた)。 	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<ul style="list-style-type: none"> 予算額(指定管理料) 収入 37,425,000円 支出 36,733,970円 	<ul style="list-style-type: none"> 決算額(指定管理料) 収入 39,101,000円 支出 39,322,000円 (支出うち修繕・整備等) 森林学習軌道オーバーホール 5,225,000円 危険木伐採 770,000円 調理室エアコン更新 44,000円 男子トイレ換気扇更新 82,500円 迂回路整備 275,000円 山上展望台柱修繕工事 1,377,530円 	○	○
	経費節減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム単位で収支"0" ・木工体験材料の自達(廃材利用) ・団体収入増のためのPR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム講師料の変動制採用 ・木工材料の地元業者からの廃材を引き取り、購入品を押さえた ・学校関係のネットワーク活用による団体利用が堅調であった。 	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	国見の森公園安全管理マニュアル及び森林学習軌道運行管理マニュアルを遵守し、対応している。	◎	◎

危機管理体制の確保	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	国見の森公園安全管理マニュアル及び森林学習軌道運行管理マニュアルを遵守し、対応している。	◎	◎
県・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・運営状況については常に県、指定管理者と協議、助言をうける ・既存の緊急時の連絡体制継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・6公園連絡協議会、視察等を必要に応じ行い情報を共有した。 ・事故、救急、消防、防犯等、緊急連絡を必要とする事象発生はなかった。 	◎	◎
業務の再委託の状況	特に必要がないので再委託はしない。	県の許可、予算をうけ、間伐、大規模支障木等は関係機関、森林組合に委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>① 成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム経費を見直すことによりわずかばかり収益が改善されたため、その分施設整備に掛けられる費用が生まれた。 ・ 上記のとおり、プログラム関係はもとより里山関係の整備費用にも流用が可能となった。 <p>② 改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この収益構造を継続維持していくことが最大の懸案事項となったため、地道な PR 活動、特に学校ネットワークを活用した口コミの評判をいただけるように日々精進する必要がある。 ・ 来年度の取り組みに向けて、安定的な財源を確保するため、上記の PR 活動に加え、公園地場産の特産品を販売して、より満足度を上げる活動をしていく。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立国見の森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人しろう森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 地域団体のイベントに積極的に参加し、交流している。
- 地元の中学校や高校の就業体験活動の受け入れや、各学校のニーズに応じた体験プログラムの実施により、学校との連携強化やさらなるネットワークの拡大に努めている。
- 宍粟市商工観光課が発行する市のパンフレットに森林セラピーの場や「登山ルート」の一つとして掲載しており、より多くの人に公園を知ってもらえるようなPRに努めている。
- ボランティアの参画により、効率的に森林整備、施設補修を行っている。
- 経費の見直しを行い、前年度よりも森林整備や施設整備を充実させることができた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展してだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、団体利用を含め、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
- SNS や口コミで公園を知り来園する方が増えていることは非常に高く評価できる。周辺地域や学校等とのネットワークの拡大に力を入れ、ホームページや SNS をうまく活用した広報活動を継続的に行い、リピーターを増やす取組やさらなる来園者の確保に努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年度～令和5年度(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	・施設内(トイレ等)及び屋外(駐車場、トイレ、落葉・草引き等)の清掃を週2日実施[委託] ・芝生広場の清掃(鹿の糞を含め)を毎日実施 ・散策路の除草及び落葉除去の随時実施	◎	◎
	設備保守管理	・拠点施設周辺を毎日点検 ・散策路を定期的に(1回/月)、かつ天候(風雨等)に応じてその都度点検し、倒木・落石等の対処を実施	◎	◎
	植栽管理	「観察の森」整備の実施 ブルーカーボン基金活用支援事業を活用し、倉庫裏の林の整備を実施し、広葉樹を植樹	◎	◎
	警備	・夜間及び休園日は警備会社(セコム)に委託 ・駐車場はバリカー施錠 ・問題事案の発生無し ・虫が原因でセンサーが作動する可能性があるため、虫に強いセンサーに交換	◎	◎
	小規模修繕	・拠点施設屋根修復 ・散策道の木橋修繕 ・危険木(枯木)の伐採 ・拠点施設裏のイヌザクラが風雨により倒れ、拠点施設屋根の一部を破壊したため、修復作業を実施 ・「神木の道」入り口にある木橋の腐食劣化のため、木橋の改修を実施 ・散策路沿いのナラ枯れによる枯木の伐採を実施	◎	◎
法定点検の実施	防火用設備点検の年1回実施 毎年3月に消火器具の点検を実施し、中播消防署に報告書を提出	◎	◎	
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日 毎週月曜日 年末年始(12/29～1/3) ・開園時間 5～8月:9時～18時 9～4月:9時～17時 特に問題なく実施	◎	◎
	公共性・公平性の確保	・来園者の要望は可能な限り対応 ・但し、キャンプ及びバーベキューを禁止 ・要望には丁寧な対応に徹した。 ・園内は原則火気厳禁 ※隣接する弥勒寺は重要文化財を有する等、山林火事防止は最重要課題	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	・プログラム 計画通りの実施 実施回数 80回、参加者 3,638人 ※前年度より減少理由は、活動スタッフの退会による実施不可となったプログラムがあったため ・来園者数 前年度以上を目指す ・総来園者 28,745人 ※前年度比 559人、約2%増	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	プログラム参加者にアンケートを配付	・活動拠点施設入口にアンケート及び回収箱を設置するとともに、プログラム参加者にアンケートを配付 ・アンケート結果の概要 回収数 231 件(前年 103 件) スタッフ満足度 91% スタッフ数適正度 92% 施設設備満足度 77% 清潔満足度 84% プログラム満足度 93% 総合満足度 87%	○	○
利用状況	利用者数	目標:26,500 人	28,745 人[目標値:108.5%、前年度:28,186 人] ※過去最高値	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	(該当なし)	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 30,267,978 円 支出 30,267,978 円	決算額(指定管理料) 収入 30,267,978 円 支出 30,325,930 円 (支出うち修繕・整備等) 危険木伐採 1,500,000 円 災害復旧(倒木処理等) 927,978 円 神木の道簡易木橋改修 1,089,000 円	○	○
	経費節減に向けた取組	指定管理料+雑収入内に支出を収める。	委託業務を減らし、職員でできる業務は可能な限り職員により行う。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	・事務局長、職員による即時対応(職員対応案件は事務局長へ必ず報告)	・苦情は特になし ・「散策路の整備」の要望 →費用がなく、今後の課題	◎	◎
	危機管理体制の確保	・緊急連絡体制の確立 ・各種訓練の実施	・職員の連絡体制あり ・事務所内に緊急連絡先の掲示 ・消防署と連携し散策路の危険個所の点検と緊急時の対応の確認を実施(年1回)	◎	◎
	県・関係機関との連携	・県(担当部署)との連携を深める。 ・公園運営委員を通して、関係機関への理解、啓発に努める。	・県との連携は特に問題なし ・活動スタッフ用通信(毎月発行)を地元自治会にも送付し、公園活動に対する理解増進に努めた。 ・トライやるウィーク(中学生)の受入、森まつり(年2回)への自治会の参加等、関係機関との連携に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	円滑な業務遂行のための業務の再委託の実施	高度な技術や専門性が必要な支障木や危険木の伐採を地元森林組合に業務委託した。 ※これにより、来園者の安全を確保できた。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・ 持続可能な森の豊かさを守るためには、日常的な森林の整備と効果的な害獣の対策が不可欠である。
- ・ そのためには、予算と人員の不足は大きな課題である。
- ・ 自然公園での安全な活動(散策や動植物の観察等)を保障するため、公園職員として日々注意意識を喚起し、全職員一丸となって公園内の整備や対策及び諸活動の実施や支援に励んでいる。
- ・ 自然公園の来園者を増やし、多くの県民参加を促すため、プログラムの実施やボランティア活動の支援を行っているが、既存のプログラムだけではなく、森林の中で過ごすことで心身ともに癒やされるようなプログラムを更に開発し、次年度は積極的に実施してまいりたい。

自己評価:◎

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○園内の清掃、設備保守管理を徹底しており、来園者の安心・安全の確保に努めている。

○小学校の団体受け入れ、中学校のトライやるウィーク、高校のインターンシップ受け入れなど、地域との交流、次世代の育成にも熱心である。

○職員や地元ボランティアが中心となって継続的な森林整備を行っており、希少性の高い野鳥が生息する公園として多くの自然愛好家に親しまれている。昨年度には過去最高の来園者数(28,186人)を記録したが、それを上回る来園者数(28,745人)を記録したことは、非常に高く評価できる。

○こまめな草刈りや散策道の整備等、利用者が安心・安全に自然と触れ合えるよう努めている。

○プログラム参加者のリピーターが多い(満足度 93%)ことから、利用者のニーズに合った多種多様なプログラムを企画立案できていることが窺える。

中でも、食のプログラムは非常に人気が高く、親子・家族で参加する利用者が多い。親子・家族がふれあえる場や、子どもたちが豊かな自然や地域に根付いた文化等を楽しく学べる場、若い親世代が人と自然が共生する豊かな森づくりの大切さを考えるきっかけを提供できていると言える。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法で実施して欲しい。来年度取り組む予定としている森林が持つ安らぎや癒やしの効果が感じられるプログラムの企画も進めて欲しい。

○SNSをうまく活用した広報活動を行い、さらなる来園者の確保に努めて欲しい。

○解決が難しい課題については、関係機関と連携し、対応を工夫して課題解決に努めて欲しい。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	トイレ・ホールの日常的点検を行う。 倉庫等の整理整頓を行う。	トイレ・ホールの清掃点検(毎日・火曜日は 水洗い) 里山倉庫、木工倉庫の整理整頓(月1回) 建物の周辺清掃(週1回)	◎	◎
	設備保守管理	日常点検を行う。 職員による設備点検を行う(年1回)。 不具合の発見と早期の対策。	日常点検を行う。 職員による設備点検の実施	◎	◎
	植栽管理	定期的な草刈り(全般)。 シカによる被害の対策。 樹木の剪定。	広場の芝生草刈り(伸びてきたら) シカ対策の電柵、ネットの設置(前回未設 置分) ブナ科樹木・ネムノキ等の剪定 畑・水田・果樹園の整備	◎	◎
	警備	施設、駐車場バリアフリー施錠の順守。 夜間警備は ALSOK に委託している。	施設の施錠は職員が施錠している。夜間 警備は ALSOK に委託して管理している。	◎	◎
	小規模修繕	園内の施設の点検及び小規模修繕の実 施。	散策道の階段補修、ナラ枯れの伐採	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽の保守管理を行う。	浄化槽保守点検の実施(年8回2か所)	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	◎	◎
	公共性・公平性の確保	プログラム受付の公平な対応	プログラム受付(電話・FAX・メール)で統 一した日時を定め公平に受け付けた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	※前年度実績 企画プログラム数:67回(993人) 団体利用:180回(3,404人) 里山づくり活動:96回(174人)	企画プログラム数:64回(683人) 団体利用:165回(3,435人) 里山づくり活動:133回(294人)	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者アンケートボックスをホールに設置 し、集計・調査を行う。 散策道の東屋(黒木山と展望台)に感想ノ ートを設置。	アンケート総数 64 通 おおむね満足された方が多かったが、溪 流の広場にスタッフを常駐させて欲しいと の要望もあった。総数が前年度よりも多か った。 感想ノート総数 411 件(黒木山 153 件、展 望台 258 件) 満足された方が多かった。	◎	◎
利 用 状 況	利用者数 [前年度:23,709人]	25,000人 38,064人 前年度より約1,4000人増加。 運営体制の立て直しとして、団体利用・プ ログラム数や森づくり活動を充実させた事 が利用人数増加につながった。	◎	◎	

	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 29,106,000 円 支出 29,106,000 円	決算額(指定管理料) 収入 30,782,000 円 支出 30,782,000 円 (支出うち修繕・整備等) 危険木伐採 132,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	見積り合わせの完全実施を行い業者選択する。	節約に取り組めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情・要望内容の把握に努める。 生の声の収集(感想ノート設置、職員とボランティアスタッフのヒヤリハット報告)	入園者・団利用者からの苦情、ボランティアスタッフや職員のアンケートを実施し、即対応した。団体利用者の転倒事故については1件保険対応を行った。	◎	◎
	危機管理体制の確保	AED 講習会の実施	消防署と相談の上、AED 講習会は来年度か再来年度に実施する。 救急救命講習等を修了した職員が、未修了の職員にレクチャーするなど、危機管理体制の構築に努めている。 緊急連絡リストの作成(職員の入れ替わりの都度) 散策道の立ち枯れ、倒木処理の実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県、地元、関係機関との連携を図る。 特に、町行政との関係性を強める。	連絡を密に取り合い、緊急時にもスムーズに対応できるよう運用している。	◎	◎
	業務の再委託の状況	会計事務に不安があるため会計事務所に一部業務委託する。	月1回税理士に来ていただき、経理の相談や会計処理、消費税計算等の業務を委託している。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

地元住人への関心強化として休園日駐車場の開放、ふるさとの森として里山の入会地復活、CSR 的機能での都市部と農村部の交流を行いながら地域貢献と社会貢献が出来ている。

クヌギ・アベマキ・コナラやアラカシなどブナ科植物の萌芽更新を行っている。10年20年先の里山再生と維持を目指します。子どもボランティアを中心に異年齢集団のボランティアスタッフを形成し、次世代の里山の有効利用・資源を還元モデルとします。また薪炭林や極相林、人工林の仕分けを行いより良い「ふるさとの森」にしていきます。

兵庫県の推奨地として、大阪万博での来園者誘致など「クアオルトコース」をグローバルに里山紹介を発信していきます。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○公園を多可町観光交流協会の実施する「レンタサイクル事業」の拠点施設として活用し、地元住民に公園の駐車場を開放したりして、公園への関心や利用者増に向けた取組を行っている。

○ボランティアの参画により、効率的に森林整備、施設補修を行っている。

○地元の保育園や学校等、子どもを対象としたプログラムでは、子どもたちが、自然とのふれあいを通して、生きる力を養い、豊かな心を育む自然環境学習の機会と場を提供しており、次世代の担い手づくりに貢献していると言える。

○職員やボランティアグループを中心として、自然豊かな美しい里山の維持管理や散策路の整備等が行われており、利用者の満足度も高い。

○子どもボランティアグループの創設や女性ボランティアの受け入れ等を積極的に行い、多様な担い手による森づくり活動を充実させたことや、一般利用者や保育園・学校・地域団体等の団体のニーズに合った多種多様なプログラムを展開させたことが、利用者数の大幅な増加につながったことは、非常に高く評価できる(前年度より約14,000人増加)。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○兵庫県観光百選の一つに数えられる竹谷山沿いの溪流や翠明湖、北播磨の山並みが一望できる尾根筋など、四季を通じて豊かな自然を満喫できる強みを活かし、PRの方法を工夫、発展させ、さらなる来園者の確保に努めて欲しい。既存の地元のネットワークや新たに形成したネットワークも是非活かして欲しい。

○ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取組を継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立ささやまの森公園	現指定管理期間	令和6年度～令和8年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	園地管理職員による事務室棟・納屋棟・トイレ棟・道場棟等の清掃 玄関・廊下の清掃 毎週 火・金曜日 96回	園地管理職員による事務室棟・納屋棟・トイレ棟・道場棟等の清掃 玄関・廊下の清掃 毎週 火・金曜日 96回 ※トイレ等の山野草の飾り付けや清掃状態に来園者から高評価を得る	◎	◎
	設備保守管理	浄化槽点検 2ヶ月ごと 6回	浄化槽点検 2ヶ月ごと 6回	◎	◎
	植栽管理	生け垣・植木の剪定、下草刈り 梅雨の前後に実施	生け垣・植木の剪定、下草刈り 6月末から7月にかけて実施 公園内外の植栽を美しく剪定できた。下草刈りも暑い中丁寧に行い来園者の評判もよいが、散策道等の管理で、開園 20 年経って経年劣化箇所の整備が果たせていない	○	○
	警備	夜間警備 センサーによる警備	センサーによる夜間警備で安全性が補完されている	◎	◎
	小規模修繕	散策路の補修	太鼓橋の経年劣化箇所の修繕工事を行い、安全性が増した	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備点検 年度に2回	消防設備点検 3月と9月に実施 異常なし	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年9時～17時15分	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年9時～17時15分	◎	◎
	公共性・公平性の確保	来園者の満足度を高め、また来たいと思ってもらえるよう努める	すべての来園者に満足いただけるよう施設の点検や案内に努めた	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	企画プログラム数:90回(950人) 団体利用:30回(600人) 里山づくり活動:100回(300人)	プログラム実施数:89回(808人) 団体利用:22回(588人) 里山づくり活動:80回(291人)	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	新しいプログラムを開発しながら、参加者の満足度高める工夫をする	天候不順による未開催のプログラムもあったが、アンケート結果からは高い満足度が窺えた	◎	◎
利用状況	利用者数	25,000人 [前年度:21,725人]	25,603人 稀少野鳥ヤイロチョウの営巣の影響があり、過去最高の入園者数を数えることができた。	○	○
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—

収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料・補助金) 収入 25,249,000 円 (収入:うち補助金 17,964,000 円) 支出 25,249,000 円 (支出:うち補助金 16,658,000 円)	決算額(指定管理料・補助金) 収入 26,265,000 円 (収入:うち補助金 18,980,000 円) 支出 27,666,073 円 (支出:うち補助金 15,113,490 円) (支出:うち修繕・整備等) たいご橋補修工事 400,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	消耗品等の無駄を省く	必要経費の節約に努め、無駄のない経費執行が果たせた	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情には真摯に対応し、苦情について職員全員で共有し対応・対策を考える	大きなトラブルの発生やクレームについての大きな問題はなかった	◎	◎
	危機管理体制の確保	散策路・登山道の点検 木製遊具の点検 警察等の関係機関との連絡・連携	自然災害による倒木や崖崩れはあったが、その都度点検し、大きな瑕疵の発生はなかった	◎	◎
	県・関係機関との連携	県庁農林水産部治山課、丹波の森協会との連携を密にする。	関係機関との連携を進めた	◎	◎
	業務の再委託の状況	マツタケ山の整備	マツタケ山の整備 9月～11月に近隣の3自治会に委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

特に希少種の野鳥が生息する里山公園としての知名度が定着し、野鳥観察の方々の来園が相当数に達した。また、植物においても、希少種の成育が継続的に確認されており、来園者の期待に添う結果に繋がっている。

このように、ありのままの自然が息づき、希少動植物が観察できる公園として、環境保護を第一義とした、持続可能な公園運営に邁進していきたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立ささやまの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○ボランティアスタッフが中心となり、利用者のニーズを反映したプログラムの企画・立案を行っている(班ごとに定期的に会議を開催)。プログラムに参加した利用者の満足度は高く、特に、草木染めや木工体験プログラムや親子で自然に親しめるプログラムは人気で、来園者の増加につながっている。

○ボランティアの参画により、効率的に森林整備、施設補修が行われている。

○職員やボランティアスタッフが中心となって自然豊かな美しい里山の維持管理に努めた結果、希少性の高い動植物が生息する公園として知名度が定着し、過去最高数の来園者が訪れたことは、非常に評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
- ボランティア体験などのプログラムの開発により、社会教育施設としての役割も期待したい。また、それが新たな担い手の確保につながることを期待したい。
- 苦情、要望については、当日配置されたスタッフによる対応で終わるのではなく、全スタッフで共有し、公園運営の改善に活かしてほしい。
- 公園づくりの7つの柱のひとつである「地域の教育機関、各種団体との連携」をさらに強化し、県民に愛される里山公園づくりに努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立やしらの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	やしらの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常的に細部に至るまで清掃を行い、常に清潔に保つことで規範を作り、ゴミの発生源を排除することでゴミゼロを目指し快適な環境を提供する。	母屋、施設の便所等の清掃及び園内のゴミ拾い巡回と併せて隣接する県道に不法投棄の防止看板を設置、ゴミ拾い、見回りを毎日実施徹底することでゴミを捨てない環境づくりを推進。 ゴミを捨てない規範が出来ており、散策路にほとんどゴミが無く来園者に気持ちよく施設を利用していただいている。刈草や生ごみの堆肥化、間伐材の資源化などにも取り組んでいる。	◎	◎
	設備保守管理	施設設備(電気・空調等)及び園内木製品(木道等)について保守点検を行い、必要に応じて保守整備を行う。 整備にあたり伐採木の利用等園内の資源を有効活用する。 自主点検チェックリストをもとに年一回以上実施。	日常の保守点検を実施。木道等の構造物の改修計画を作成し優先度が高い箇所から順次補修工事を行った。ボランティアスタッフによる見回りや自主点検チェックリストをもとに点検を実施した。安全性を重視し計画的に補修を実施。 ボランティアスタッフの活動の一環として管理費以上の施設整備を実施した。あらゆる手法を探り極力低コストでの維持管理に務めた。ナラ枯れによる危険木等の処理も予算が許す限り迅速に行うと共に、状況に合わせて散策路を封鎖する等安全を優先した管理を行った。	◎	◎
	植栽管理	園内の除草・草刈り及び植物の育成・管理について計画的に実施する。	専門的知識及び技術が必要な森林整備については、専門事業者に委託し、安全かつ効率的に実施。生物多様性に配慮すると共に、大型の台風や暴風雨が頻発する昨今の気象条件やナラ枯れ被害を考慮した今必要な森づくりを推進する。適期を逃さない除草を日常管理で行うなど安全快適な管理を実践した。 通常の管理に加え、生物多様性に配慮した公園づくりを推進。企業と協働で森づくりを行うなど先進的な取り組みとして評価を得ている。植栽木についてもボランティアスタッフが剪定を行うなど県民参加の公園づくりを実現している。ナラ枯れ等危険木の調査を実施し、被害状況のマッピング、危険な立ち枯れの処理に役立	◎	◎

			てた。		
	警備	園内の財産を保全するために必要な環境を整備する。夜間の警備は機械警備による委託業務とする。 防犯対策を整え、来園者が安心して園内を散策できるように努める。	車上荒らし対策・不法投棄防止として看板を設置し、職員による巡回強化や声掛けを実施。 駐車場に監視カメラと監視中の掲示物を設置。 夜間の施設警備は、警備保障会社に委託することにより管理している。地域の交番等と連携し見回りを依頼するなど犯罪防止に務めた。	◎	◎
	小規模修繕	危険防止及び安全確保等のため、必要に応じて施設の修繕等を実施する。修繕にあたり園内の資源を有効活用する。	老朽化した散策路の階段補修等優先順位の高い箇所から修繕を行った。 木道修繕に伴う程度の良い廃材はストックし、安全上問題のない散策路の土留めや腐葉土ポストの整備などに再利用し、事業の推進とコストの削減を両立した。 企業やボランティアの力で施設の維持管理も行い、低コストで来園者が安心快適に利用できる環境の整備を行った。 ボランティアスタッフを中心に順次整備を進めているが、経年劣化が激しく整備が必要な箇所は、年々増加しており、整備が追い付かなくなっている。	○	○
	法定点検の実施	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	【休園日】 毎週月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)、 年末年始(12月29日～1月3日) 【開園時間】 9:00～17:00	計画通り開園することが出来た。 閉園 30分前と 10分前に閉園案内の放送を実施。	◎	◎

	<p>公共性・公平性の確保</p>	<p>地域の資源として豊かな自然環境を保全する。 HP 等各種メディアを活用し広域的に活動の周知に努める。 利用者のニーズを把握し、だれでも足を運び楽しめる公園、参加しやすいプログラムを企画する。魅力ある事業を行う。</p>	<p>月 2 回「森もりの日」を設定し、誰でも参加できる県民参加の森づくりを推進し、県民がボランティアとして事業に参画しやすい環境整備に務めた。 HP やフェイスブック、インスタグラム等 SNS で広く広報を行い、公園の魅力や活動の様子を発信した。多様な内容のプログラムを企画実施し、ニーズにきめ細かく対応した。園内に情報交換用の掲示板を設け活動の活性化とコミュニケーションの深化を図った。高齢化社会と身障者や車イスでの利用を視野に入れたユニバーサルデザインを意識した公園づくりを推進した。 自然環境保全の広域的な活動拠点として役割を果たしている。 スタッフが主体となって幅広いニーズを受け入れる公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組むことが出来た。</p>	◎	◎
	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>プログラム開催回数(150 回程度/年) 県民の多様なニーズに対応したプログラムを開催する。 利用団体のニーズに合ったプログラムの開催。ボランティアによる里山づくり活動。平日の利用促進。 企業との協働事業の推進。 月 2 回の「冒険ひろば」を開催する。</p>	<p>総プログラム計画数 161 事業 実開催プログラム数 158 事業 プログラムのべ参加者数 4,073 名 団体利用: 197 回(3,554 名) 里山づくり活動: 98 回(722 名) ボランティアスタッフ主体のプログラム企画・運営が定着しており、企画数・内容ともに充実している。木育準備会による木育木エプログラム、大人向けプレミアムプログラムの実施や平日プログラムの充実により新たな利用者を拡大した。 コロナ禍で取り止めていた食の提供や食を扱うプログラムは滞ることなく実施することができ、スタッフの活動の幅や回数、プログラムの自由度や内容が充実し、更に満足度の高い事業を展開することができた。 併せて、収穫祭などの大型イベントも再開することができ、活気を取り戻す 1 年となった。 環境学習、団体利用の受け入れとサポートにボランティアスタッフが主体的に関わり実施した。 「子どもの冒険ひろば開設費等補助事業」の補助を受けて月 1 回以上の冒険ひろばを開設し、子どもたちが自然の中で安心して遊べる環境を整備した。</p>	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	プログラムのおわりにアンケートなどを用いて参加者自身がふりかえりを行えるよう促し、参加者の変化を検証し満足度を高める機会を設ける。	ふりかえり結果を分析し、次期プログラムに反映させることにより、プログラム内容の充実、丁寧な対応、適正な参加費設定などに活かし、多くのリピーターを得て、高く評価されている。	◎	◎
利用状況	利用者数	目標総利用者数: 30,000 名 [前年度実数: 31,184 名]	総利用者数: 30,420 名 プログラム参加者: 4,073 名 団体利用者数: 3,554 名 里山づくり活動: 714 名 感染症対応に纏わる衛生管理への懸念から取りやめていた食の提供、食に関するプログラムを完全解禁した事で、プログラム内容やスタッフ活動に自由度が戻り、収穫祭などの大型イベントの復活などコロナ以前の活気を取り戻す 1 年となった。	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 28,952,000 円 支出 30,714,000 円	決算額(指定管理料) 収入 30,069,000 円 支出 31,537,462 円 (支出うち修繕・整備等) 危険木伐採 1,980,000 円 給湯整備更新 352,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	<p>業務を PDCA サイクルに則り、常に見直すことで経費節減を心がけ効率的に職務に取り組む。</p> <p>環境保全事業、子どもの居場所等に係わる助成事業の情報収集を行い積極的に活用する。</p> <p>自主事業を拡充し、協力金を得ることで運営サービスを充実させる。</p>	<p>日常業務の優先度を精査し、効率的に運営することでコストの削減に取り組んだ。事業ごとにふりかえりを行い、次の事業をより効果的に実施できるよう努めた。プログラムの運営、施設運営がスムーズに行える適切な支出を行った。運営のコスト意識を職員に徹底した。</p> <p>田畑農産物の販売や助成金の活用など自主事業により、指定管理費以上の運営を継続した。</p> <p>助成金事業を有効活用し、プログラムや事業を充実させると共に、それぞれの事業の PR に努めた。</p> <p>・阪急阪神ゆめ・まち”ええこと”応援団 ・子どもの冒険ひろば開設費等助成事業 ・花博自然環境助成(来期向け申請)</p>	◎	◎

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>苦情要望に対しては公平かつ真摯に対応し、公園のイメージアップに努める。</p>	<p>利用者の立場になり、より快適に利用できる環境整備を心がけている。</p> <p>利用者とのコミュニケーションを図り、ニーズに柔軟に対応した結果、利用者が気持ちよく利用できる環境を提供できた。</p> <p>地域の一員として地域住民と平素より良好な関係を築き、その役割を果たしている。</p> <p>隣接地への支障木の伐採を優先するなど地権者を尊重し、地域と良好な関係を維持している。</p> <p>季節の花の開花情報など自然に纏わる問い合わせが多く、HP やブログにて情報発信した</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	<p>危機管理体制を整備する。</p> <p>個人情報の保護に努める。</p> <p>安全講習会 年1回以上実施。</p> <p>食品衛生管理者を設置。</p> <p>緊急連絡先の掲示。</p>	<p>緊急連絡網、防火管理組織等の整備を行った。個人情報の管理体制を徹底。園内各所に緊急連絡用の看板を設置。ため池に救助用浮き輪を設置。ボランティアスタッフ自身による防火安全講習や子どもたちに大切に正しく道具を扱えるよう指導、安全意識の醸成と安全第一の運営を行った。ボランティアスタッフが主体的に安全に対する呼びかけを行い、安全意識の向上につながった。組織として安全衛生担当理事を中心に危機管理体制の構築を図っている。</p> <p>食の提供に際して、食品衛生管理者を配置し食中毒予防に関しても最大限に留意した。</p> <p>時勢に必要な危機管理として感染症に留意した運営を実施した。</p>	◎	◎

県・関係機関との連携	県、地域、関係機関との連携を図る。	<p>嬉野台生涯教育センター、教育研修所、県民局、地元 NPO、かとう環境パートナーシップなど連携を図った。</p> <p>とんどまつりの実施や地元へもち米の寄贈など地域間及び世代間の更なる交流の推進が図れた。</p> <p>高校生や大学生主体のプログラム運営の機会提供とサポートができた。ひょうご SDGsネットワークと連携し、SDGsを意識した取り組み実施に向けて、県民や企業と協働で情報収集、プログラム立案ができた。</p> <p>地元自治体との環境パートナーシップ協定に基づいた事業に協力し、地域に貢献している。</p> <p>関係機関と平素よりコミュニケーションを密に、良好な関係づくりを心がけて協働による相乗効果を生み出す取り組みを行った。</p>	◎	◎
業務の再委託の状況	警備 警備会社 東洋テック姫路(株) 事業系一般廃棄物収集運搬 (株)ウエルフェア 田畑耕作 委託者 2名	警備 警備会社 東洋テック姫路(株) 事業系一般廃棄物収集運搬 (株)ウエルフェア 田畑耕作 委託者 2名	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

活動スタッフを中心に多様な活動、プログラム提供を行いながら充実した公園の管理運営がなされた。感染症拡大の懸念から、長らく取り止めていた食の提供、食を取り扱うプログラムは年度を通して完全解禁で運営された。

これに伴い、「収穫祭」など大型のイベント企画も広報面などで 100%とはしなかったものの本来の形での運営が執り行えた。高い衛生管理意識などコロナ禍において蓄積されたノウハウを活かす事が出来ており、更なる事業発展に繋がっている。

コロナ禍で新たに生まれた需要の定着とコロナ禍以前の一時途切れた需要の回帰による、利用の充実を推進する。

今後も多くの人に愛される県民が主体的に参画し、県民のための公園として存在価値を生み出す持続可能な運営を目指す。

一方で、散策路、建築物、木道などの施設老朽化やナラ枯れによる大径木の立ち枯れなど、来園者の安全に関わる課題が山積しているため、限られた予算の中ではあるが、緊急度・優先度を見極めつつ、計画的に修繕等を行い、公園の安全管理に努める。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立やしろの森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	やしろの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 「森もりの日」(月二回の全体作業日)では、活動スタッフや一般参加者、企業間の交流が活発で、初めての人でも継続して参加しやすい作業内容や雰囲気づくりがなされており、県民総参加の森づくりが実践できている。
- 多様なプログラムの実施により、幅広い地域や年代の一般参加者と交流できている。公園や森づくりに興味を持った方がボランティア活動に参加するきっかけをつくるなど、普及啓発活動に努めており、一定の成果を上げている。
- 森林整備、施設補修について、自主点検シートの作成や調査結果の見える化・分析を行った上で計画を作成、優先順位の高い箇所から改修工事を実施し、来園者の安全確保に努めている。また、ボランティアの参画により効率的に行っている。
- 新型コロナ感染拡大防止対策を踏まえた上で、プログラム数・内容ともに充実させ、県民の多様なニーズに応えられるよう努めている。
- 高齢者や障害者などの車椅子利用者の来園を想定し、ユニバーサルデザインを意識した公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組んでいる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展してだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。また、SNS の存在を来園者やプログラム参加者に周知し、公園の存在をより多くの県民に知ってもらうことで、様々な世代の来園者が増えることを期待したい。
- 多くの地域団体、企業、学校と連携しており、大変評価できる。それらのつながりを活かし、団体利用の増加に努めるよう工夫して取り組んで欲しい。
- ボランティア活動について知ってもらう機会の提供やボランティア体験などを通して、新たな担い手の確保につながることを期待したい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	特定非営利活動法人宝塚 NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	施設内:毎日、トイレ:週2回 駐車場:月1回(草刈り・ゴミ 拾い) 窓:年1回(業者委託) 床・ウッドデッキ:年1回(業 者委託)	計画通りに実施。来園者か ら綺麗な施設だと喜ばれて いる。	◎	◎
	設備保守管理	管理棟芝屋根の管理:年2 回 散策路の保守点検:週1回	計画通りに実施。大雨や強 風の後には、散策路の点検に 入っている。	◎	◎
	植栽管理	毎月作業計画を立てて実施 草刈り・花壇整備・芝刈り 剪定・水掛・施肥等	計画通りに実施。草木を枯ら す事無く、管理できている。	◎	◎
	警備	夜間警備:セコムに委託	セコムは問題なく警備でき ている。 当方で設置した防犯カメラは 問題なく稼働している。	◎	◎
	小規模修繕	木柵の防腐処理	職員で防腐剤を塗布。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽点検:年3回(東・西) 消防設備点検:年2回	計画通りに実施。	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	令和5年度より通年 9:00～ 17:00 に変更。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	誰にでも利用してもらえるよ うに、配慮した。 車椅子2台貸し出し。	ケア施設の散歩コースにな っている。	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	※前年度実績 企画プログラム数:70回(2,771人) 団体利用:57回(1,980人) 里山づくり活動:156回(965人)	企画プログラム数:67回(2,551人) 団体利用:42回(1,107人) 里山づくり活動:131回(879人)	○	○
	利用者満足度調査結 果 (アンケート調査)	東の谷管理棟と西の谷農舎 にアンケート用紙を置き記入 してもらおうようにしている。	思うようにアンケートが回収 できなかった。	○	○

利用状況	利用者数	40,000 人 [前年度:37,078 人]	32,792 人 減少	○	○
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 30,014,000 円 支出 30,014,000 円	決算額(指定管理料) 収入 31,724,000 円 支出 31,724,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	適切な人員の配置、各事業は外注でなく職員が実施。	指定管理料の範囲内で活動した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	公園長が対応。軽微な要望などは事務局長に報告。各担当で処理する。	電話・メール等での要望・質問は迅速に回答・改善をしている。	◎	◎
	危機管理体制の確保	連絡網を整え、緊急時のマニュアルを作成。 毒虫に刺された時や熱中症が発生した時の対応マニュアルを作成。 消防訓練・AED の使用訓練。 地元消防団、駐在所、診療所との連携。	消防訓練・AED の使用訓練を行った。 危険生物に、出会った時の対応の確認と診療所が対応してもらえるかの確認をした。 不審者の情報を駐在所と共有。	◎	◎
	県・関係機関との連携	電話・メールなどで密に連携を図る。	連携は図れた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	なし	管理運営はすべて、NPO 宝塚 NISTANI で行った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- 日々の清掃、保守管理、プログラム等は職員が計画を立てて実施。指定管理料内で適切に執行できた。
- 令和6年度は、里山フェスタが近隣で催されるので、参加協力する。
- 来園者の安全を確保する事を重要事項にする。
- 企業の森で、「フルサト・マルカ HD 株式会社」と提携できたので、協力していきたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 農林水産部治山課

施設名	兵庫県立宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	特定非営利活動法人宝塚 NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 都市近郊の立地を生かし、都市住民が楽しみながら自然とふれあい、癒しを感じられるような四季折々のプログラムを企画・立案しており、里山保全の大切さを積極的に PR している。
- 農業体験プログラムや食のプログラムは非常に人気が高く、それぞれ 100 人規模の申込みがある。家族連れで楽しめる魅力的なプログラムを企画できており、リピーターを定着させていると言える。
- 地域の小学校の自然環境学習や中学生の就業体験等を積極的に受け入れ、学校との連携強化やネットワークの拡大に努めている。
- 地域のネットワークを活用し、幅広い年代を対象にボランティア募集を呼びかけ、担い手の確保や公園独自のボランティア集団の育成に努めている(数名の学生ボランティアの応募があった)。
- ボランティアとの話し合いの頻度を見直し、ボランティアとの良好な関係性の構築に努めている。
- ボランティアの参画により、効率的に森林整備、施設補修を行っている。
- 新たに「企業の森づくり」の協定を締結でき、企業との連携強化を図っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、年間を通じた農業体験ができるなどの強みを活かしながら、新規でも申し込みがしやすい内容、方法で実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
- アンケートだけでなく、利用者に直接声かけを行うなどして利用者のニーズを把握し、今後の公園運営に反映させて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である